

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域の中で、持てる力を活かし、安心して自分らしく、共にのんびり暮らすお手伝いをします。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	会議、申し送り、日常ケアの中にも、理念に基づく方向性を探る会話になっている。特に、会議は理念に基づいた具体的なケアについて意識の統一を図っている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族様には、月一回のお便りで、運営方針の理解を求め、公民館行事に参加や、地区の季節の行事をすることで地域に馴染んで生活していることを理解していただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	日常的に挨拶し、隣近所様と世間話をしたりしている。野菜を頂いたり、入居者様が外に出られた時は、見守って知らせてください。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に入り、公民館行事や、季節の行事も行い、交流している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	在宅で、要支援の方の、歌のボランティアとして外出の機会を作る話があり、受け入れたことがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を会議を設け、反省点を全員で共通認識し、サービスの向上に生かしている。	○	自己評価することで全職員・パートが己を振り返り、外部評価結果を踏まえ会議で取り上げ、より一層共通認識を持って取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価機関からの報告・説明と共に取り組んでいきたいテーマを決め、運営推進委員様お1人お1人様から質問・意見・要望・改善提案を受け、その結果を職員・リスク会議で話し合い、サービスの向上に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議・健康体操・クリスマス会などに御参加して頂き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開き、権利擁護の知識・理解を深めるように努力している。必要な際は、市役所・社会福祉協議会とも連絡を取り合っている。	○	権利擁護などの研修会があれば積極的に、参加して知識を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一回リスク会議を設け、虐待・拘束などについて話し合っている。また虐待行為を発見した場合、対応方法について事業所内で周知徹底している。	○	リスク会議時、ひやり・ハット報告会を設け、事故の防止・予防に積極的に取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>利用料金・リスク・医療連携体制・退所の要件・ケアプラン等、事業所の理念をふまえ時間を作って丁寧に説明している。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>いつでも意見が言えるように、御意見ポストを設置している。御意見があった場合、会議で議題に上げ、検討し、結果は運営推進会議で報告する。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>御家族様の訪問時には、必ず声を掛け日頃の状態などを説明している。また月一回のおたよりに利用者様個別の状況・健康状態(現在服薬しているお薬)、金銭管理など報告している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>家族様の面会時・年一回家族会・面会時・御意見箱で問いかけ、何でも遠慮されることなく言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。</p>	○	<p>もっと自由発言でき、個人だけでなく、家族会としての要望などの意見を吸い上げられるように、曜日、回数を考慮し家族会の自主運営を支援している。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>日頃から何でも言いやすい様な雰囲気づくりを心掛け、特に会議の場は、全員発言の場になる様に会議の担当司会者とも事前に打ち合わせなどもしている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>管理者は、状況に応じた対応が出来るように、通常のスフトに入れていない為、夜間の対応や利用者の状態の変化に応じた柔軟な体制が取れている。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>利用者1人1人に担当職員をつけ、他の誰よりも一番よく知っている馴染みの関係を作っている。</p>	○	<p>離職時、その時期や引継ぎの面で全職員で話し合い、利用者様に影響がないよう心掛けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講習会など各職員の協力のもと参加する事に努めている。研修内容については会議にて情報提供し、全職員で共通認識している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・講演会で知り合った同業者と機会があれば、お互いの施設見学会を実施し、情報の提供や交流を図っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護ストレスは存在するものと据え、勤務表において休暇や希望等、踏まえ個別に調整を行って頂き、問題点検なども会議にて話し合いを行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の個性を活かし、働きやすい環境作りに勤めている。また職員が向上心を持って働けるよう職能評価を定期的に行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に、御家族様・御利用者様の求めているものを理解しようとコミュニケーションを取り、事業所としてはどのような対応ができるか全職員で話し合っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時など家族様の話をよく聴き、困っている事・不安な事・分からない事など明確化し、把握する事によって信頼関係をより一層築く努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様が求めておられる支援を理解し、相談、話し合いを繰り返し、必要なサービスに繋げる様、努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	時間を掛け、家族様に面会に来て頂き、食事会など通して、落ち着かれ、安心感をもたれるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人様の思いや希望など理解、共感する事に努め、役割を持って頂くなど、一緒に過ごし、日常生活を行っていく関係作りに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの中で、気付いたことや、本人様の訴え、思いを踏まえ、共に同じ方向を見て、家族様と一緒に支えていく関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に家族様の意向を聞くなど、本人様の日々の生活をヒントとして話し合い、外出、外泊、各行事に参加をして頂く機会を設け、関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの友人・知人・近所の方を季節の行事・食事会に誘ったり、継続的な交流が出来るように働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士が楽しく過ごせる様、個別に相談に乗ったり、レクリエーション・散歩・好きな食事作りなど皆様が参加できるような場面作りを常に職員1人1人が心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	毎年、時期をみて当施設から退所された利用者様の所へ会いに行ったり、退所された方の家族様が気軽に立ち寄ってくださったり、毎年年賀状を送ったりと、ご本人様だけでなく、家族様との関係も断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別介護等踏まえ、ケアプランに添った支援に努め、利用者様の思いなどの把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で、利用者様が何を思い、望んでおられるのか、一緒に関わり生活することで理解する事に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者様の出来る事を見極め、役割を持って頂き、自分の出来る事をお願いする。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が責任を持ってご本人、家族様より情報を得て、アセスメントをして、会議でケアカンファレンスをし、総合的に支援を行う計画を実施している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者様の介護計画の見直しは、モニタリングを行うなど、毎月家族様、本人様を交えて話し合い、会議において職員全員で話し合いを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務前には、業務日誌にて日々の様子を確認している。介護記録は、ケアプランに基づき詳しく記入し、プランは毎月会議で検討している。個別にバイタル、食事、排泄のチェックを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の送迎や、御家族様と一緒にホーム内での食事、お茶等柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年間行事計画により、地域の納涼祭・文化祭など自治会・ボランティア等の協力を得て、変化のある楽しみを支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外食・美容院等地域の協力を得て本人の意向や希望を叶えている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において、周辺情報・情報交換等、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のよる往診・受診・訪問看護・通院により、常に適切かつ迅速な医療を受けられるように支援し、ご家族様と連絡を取り合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	従来よりの専門医に通院し、助言や指示を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医と24時間体制で相談、対応が行える。訪問看護師のもとで健康管理が行われている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人様の資料を提供し、頻回の見舞い、介助により早期の回復に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	御家族様との話し合いの上、協力医の指示によりスタッフ全員が方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ハード面で限界はあるが、家族様の意向があり、協力があれば、ターミナルをする方針はスタッフで統一している。協力医療機関へもお伝えし、協力を得ている。	○	具体的に、体調の変化をチェックできるマニュアルを作成し、有事に慌てる事無く、スタッフ全員が対応できるように、ターミナルマニュアルを作成する予定がある。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に、面接・施設訪問を行い、情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>利用者様とコミュニケーションを図り、信頼関係を築き、個々の能力に合わせた対応を心掛けている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>自分が出来る事を楽しみながら行える様に支援している。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>他の入居者様に、迷惑をかけないように、自分らしくゆったりと生活して頂くように心掛けている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>本人様の希望の美容院へ行かれたり、好きな洋服を着られたり、化粧、マニキュア等、支援している。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>一人一人の能力に合わせ、スタッフと共に、調理・食事・片付けを行っている。頂いた食材等は、話し合い、感謝しながら楽しんで食事している。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>「今日は何が食べたいですか？」など問いかけは日々日常的に行っている。特に、お誕生日は、希望メニューを差し上げている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便表を作成し、日々の変化を記録、変化ある時などは必ず申し送りにて体調変化・状況を把握し、支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴だが、昼夜問わず(21～20時までの間)本人様の希望があれば、調整を行い入浴できる用意をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人一人が自由にテレビを見たり、自室で昼寝したり希望に添った過ごし方をして頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションやおやつ時など昔のお話を出来るよう職員も一緒になって場面作りや声掛けを行っている。掃除や料理のお手伝いなども自発的にされ、役割を持たれている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様の意向もあり、全員ではないがお金を所持して頂き、買い物・美容院等自ら支払いされる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日にすぐと言う訳にはいかない事もあるが、個別のお墓参りや個々の買い物に日時や、同行スタッフのシフトを組み、一緒に行くなどの支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出等、年間行事にも組み入れ施設全体で行動している。一部ではあるが御家族様と一緒に外泊されたりする。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からかかった電話に楽しくゆっくり話して頂けるように別室・椅子等準備している。手紙が届くと、呼んで頂き、説明などを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間に関係なく、家族様や親戚の方が訪問されても、一緒に時間が過ぎせる様、希望に応じて、別室を用意している。声掛けしたり、コーヒー・お菓子等を用意しゆっくりくつろいで頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加するなど、毎月行っている会議及びリスク会議においても各スタッフ共に意識を持って理解するように努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当事業所に施錠するという発想は、立ち上げ当初からなく、居室にも鍵はない。玄関にはセンサーが設置してあり、いつでも自由に入出入り出来るようにしている。(夜20時～翌朝6時30分までは一人勤務になる為、防犯上施錠がして呼び鈴で対応している)また、外出された時は、自分が納得されるまで同行して歩く。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人様の意思を尊重し、自由に移動して頂いている。1階・2階がある為、移動された場合は時々見守りに行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・ナイフなどの鋭利の物は、職員がいない時は、利用者様の目に当たらない所に必ず保管している。ハサミ等は、見守り・声掛けにて使用して頂くようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個別的に、各担当者がリスクについて意識を持って取り組んでいる。ヒヤリハットを記録し、毎日の申し送り時などを使って早期解決して、毎月のリスク会議で振り返り、話し合い、共通認識を持って最終確認し、記録している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成し、常に対応出来る様にしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署・近隣住民・近くの交番・地域の消防団の協力を得て、年3回の避難・消火・通報訓練を実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者様の生活を第一としてご家族様に十分な説明をして理解を頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の状態変化・急変・異変は直ちに報告・観察し状況に応じて医師と密接な関係を取っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書をファイルに保存し、いつでも全入居者様のお薬が理解出来るようにいつも目につく場所に置いてある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘と不穏症状の関係はスタッフ間で共通認識している。毎朝、ヨーグルトを摂取して頂き、時には夕食にも摂取して頂く。散歩・体操等、毎日体を動かして頂き、水分と野菜の繊維質を食べやすいように工夫して摂取して頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き・嗽を確実にしている。定期的に口腔ケアの研修にも参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康状態を把握し、味付けは塩分・糖分を控えめにし、食べ易いように個々に合わせぎみ・細きぎみ・ミキサー食にしたりと工夫し、見た目も食欲がわく様に盛り付けにも気を配り、定期的に水分摂取するように一人一人声掛けをし、アイソニックなどを用いて対応をしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	常に予防・対応出来るようにマニュアルを作成し、日頃から、感染予防のため入居者・スタッフの手洗い・嗽は徹底的に実行している。入居者様、職員は、インフルエンザ予防注射を受けている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・台ふきん・マットなどはこまめに消毒し、定期的に取り替えるようにしている。残った食材は、日時を記入し、冷蔵庫か冷凍庫に保存して申し送り早期に食べるように徹底している。食品係りがいて定期的に冷蔵庫・冷凍庫の整理点検し、他のスタッフに注意を促している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口にはベンチ、その横の庭にはテーブルや椅子を置いて、外で過ごすことがあり、通りを歩いている人が気軽に挨拶できる。玄関横にはイチゴを植え、実った時に往来する人とコミュニケーションを楽しみにしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂・台所が繋がり、常に入居者様が日常の生活を実感できるようにしている。行事ごとの置物(雛人形・五月人形・七夕・クリスマスのイルミネーション・正月飾りなど)を飾り、季節感を楽しんで頂けるようにしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前・廊下・ホール等場所々に椅子やテーブルを設置し思い々に過ごせるように配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分のなじみのあるダンス・時計・アルバム・楽しんで弾いていた電子ピアノなど持ってきて頂いて、なるべく家で過ごしていた時に近いように心掛けている。	○	今後、もっと利用者様の一番良かった時代を思い出して頂けるような物がないかご家族様と共に検討していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋に冷暖房機・湿温計・イオン空気清浄機を配し、空調調整している。乾燥期には、夜間各部屋にぬれタオルを掛けるなど気配りする他、共有スペースには加湿器を配置し、トイレは常時換気している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境作りの研修などに参加したりして、個別のリスクについて会議で話し合い、手すり・スロープの配置や座位を考慮した個別の椅子を使用して頂いている。	○	今後も引き続き、リスク会議・スタッフ会議でスタッフの意識を向上させ、気付きから実践していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	毎月会議の、個別カンファレンスでスタッフ同士意見交換し、共通認識で本人理解して、対処するようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者様の出入り口にベンチを置き、庭には菜園・花壇・果樹があり全員が席に着くことができるテーブルと椅子を用意して昼食やおやつ・お茶会などを屋外で楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・開設当初より、口腔ケアの重要性に注目し、研修・講演会にも参加し、積極的に取り組んでいる。ADLの向上（食前の嚥下体操、筋力トレーニング、まめな君体操）に力を入れ、地域での健康体操にも参加できるよう取り組んでいる。